会議結果報告書

1　会議名	ごみ処理に関する課題についての意見交換会（藤和茅ヶ崎ハイタウン自治会）
2　日時	平成 30 年 9 月 2 日（日）10：00～11：00
3　場所	藤和茅ヶ崎ハイタウン集会室
4　出席者	（資源循環課）熊澤課長、小田副主査 （環境事業センター）尾坂主幹、安齋担当主査 （藤和茅ヶ崎ハイタウン自治会）参加人数：13 人
5　内容	本市のごみ処理に関する課題について意見交換会を実施した。会議の主な質問と意見は次のとおりであった。 ●知ってる？紙の分別を各世帯に配布したい。 ●資源回収推進地域補助金制度において、自治会に年間いくらの補助金を市は交付しているか。 →年間で 3,500 万～4,000 万円程度交付している。 ●自治会に交付する資源回収推進地域補助金は縮小し、市が有効にごみ処理経費に使用してよいと思う。 ●色つきのビンと白いビンは手作業で分別しているか。 →寒川町と広域で使用している寒川広域リサイクルセンターで、手選別により分別している。 ●リサイクルセンターで分別するのではなく、排出の段階から分別することも検討した方がよい。 ●ごみの有料化の導入時期はいつ頃となるか。 →実施の有無については、31 年度中に皆さまにお示しをする予定だが、現在のところは未定であり、皆さまからご意見をいただき検討を進めている段階である。 ●戸別収集は各戸を対象としていると思うが、藤和茅ヶ崎ハイタウンのような集合住宅についてはどう考えるか。 →先行市では、集合住宅については、既存の集積場所を使用して収集しており、集合住宅の場合は、既存の方式と変更はない。 ●既存の集積場所を使用する場合、排出者が明確とならずに不法投棄が多発してしまうのではないか。 →不法投棄や不適正排出の増加が懸念されるため、効果的な対策を検討する必要がある。 ●プラスチック製容器包装類はどの程度きれいにすればよいか。

	→プラマークがついており、水で洗って汚れが落ちるものは、プラスチック製容器包装類として出してほしい。 ●先行市のデータで、不法投棄の数字は出ていないかもしれないが、有料化を導入した場合、駅等でごみを捨てる人が増えることが懸念されるので、その対策も検討するべきである。 ●有料化を導入しているのは、県内の４市以外にあるか。 →４市のみであるが、現在、海老名市も検討中である。 ●全国の 63.6%の自治体が有料化を導入しているのに、県内ではなぜ４市のみなのか。 →最終処分場の有無や地域の特性などで異なるためである。 以上